4

読む

表現の工夫をとらえる

〔確認〕

名前

やってみよう

◆次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

夜の十時ごろ、青年たちは、私ひとりを宿に残して、おのおの家へ帰っていった。私は、眠れず、どてら姿で、外へ出てみた。おそろしく、明るい月夜だった。富士が、よかった。月光を受けて、青く透きとおるようで、私は、狐に化かされているような気がした。富士が、したたるように青いのだ。燐が燃えているような感じだった。鬼火。狐火。ほたる。すすき。葛の葉。私は、足のないような気持ちで、夜道を、まっすぐに歩いた。下駄の音だけが、自分のものでないように、生きもののように、からんころんからんころん、とても澄んで響く。そっと、振りむくと、富士がある。青く燃えて空に浮かんでいる。私は溜息をつく。維新の志士。鞍馬天狗。私は、自分を、それだと思った。ちょっと気取って、ふところ手して歩いた。ずいぶん自分が、いい男のように思われた。ずいぶん歩いた。財布を落とした。五十銭銀貨が二十枚くらいはいっていたので、重すぎて、それで懐からするっと抜け落ちたのだろう。私は、不思議に平気だった。金がなかったら、御坂まで歩いてかえればいい。そのまま歩いた。ふと、いま来た路を、そのとおりに、もういちど歩けば、財布は在る、ということに気がついた。ふところ手のまま、ぶらぶら引きかえした。富士。月夜。維新の志士。財布を落とした。興あるロマンスだと思った。財布は路のまんなかに光っていた。在るにきまっている。私は、それを拾って、宿へ帰って、寝た。

〔太宰　治「富岳百景」より〕

※一部、加筆修正しています。

一　この文章のような文体を何といいますか。解答欄に合わせて漢字で書きなさい。

体

二　〰〰線部について次の各問いに答えなさい。

1　この部分に使われている表現技法として最も適切なものを、次のアからエの中から一つ選んで記号で書きなさい。

ア　擬人法　イ　比喩法
ウ　倒置法　エ　反復法

2　この部分と同じ表現技法を使っている部分を文章中から探して、一つ書き抜きなさい。

三　═線部に使われている表現技法として最も適切なものを、次のアからウの中から一つ選んで記号で書きなさい。

ア　擬音語　イ　擬態語
ウ　擬人法

四　この文章の表現の特徴を説明したものとして最も適当なものを、次のアからウの中から一つ選んで記号で書きなさい。

ア　短文や体言止めを多用してリズム感を出している。
イ　敬体で文章を書き、やさしい雰囲気を出している。
ウ　会話を多く用いることで、登場人物の心情を分かりやすくしている。